

関東ブロック農業大学校等実績発表会



### 関東ブロックプロジェクト発表会開催

小雪が舞う中、1月22日と23日にかけて、トイゴ(長野市生涯学習センター)において、平成25年度関東ブロック農業大学校等実績発表会が開催されました。この発表会は各学校の代表がプロジェクト学習の成果や農業に対する意見を発表しあい、全国大会への代表者が決められ、親睦・交流を図るものです。「おもてなしの心を」という校長のスローガンの下、会場設営から案内、進行まで学生たちが中心となって大会を滞りなく進めました。22日の夜には交流会も行われる等、関東各県の農業大学校から選抜された優れた発表に学生たちも大いに啓発されたようです。

大正二年農事試験場内に開設され、農事講習部としてスタートした長野県農業大学校は今年度創立百周年という大きな節目の年を迎えました。私も後援会長の立場で記念式典等に参加させて頂き、農大百年の歴史と伝統の重さを改めて感じました。

農大生の皆さん、日本の農業を取り巻く環境はT P P 問題等、ますます不透明で大変な時代になるでしょう。しかしながら、みなさんはこの時代を切り開いていかなければなりません。

歴史ある農大で学んだ知識や経験は必ずみなさんの生きる力となり助けしてくれるはずです。

営農、就職それぞれの道は違いますが、百周年の記念碑に刻まれた「土塊百年緑永遠」の言葉を忘れずに、農業の発展のために、また良き理解者として歩んでいって頂きたいと思っています。

新年度からは新たに実践経営者コースが加わり、農大に求められる役割も変化をしていますが、農業大学校が農業振興のための人材育成機関として益々発展することを期待しています。



農業大学校  
総合農学科後援会長

関 一 敏



二年生プロジェクト発表会〜関東ブロックで第三位〜

十二月四日、五日の二日間、松代キャンパスにおいて、総合農学科二年生四九名のプロジェクト発表会が開催され、池田圭佑さんの「カーネーション夏秋切り栽培の仕立て方法による出荷分散」が最優秀賞に、佐藤淳希さんの「ダリアの秋切り栽培におけるLEDレピガード電照による品質向上効果」、塩澤晃弘さんの「りんごわい化栽培における誘因方法の違いが生育や果実品質に及ぼす影響について」、吉澤安久さんの「ヒマワリにおける栽植密度の違いによる品質への影響」が優良賞に選ばれました。

関東ブロック農業大学校等実績発表会では、池田さんの発表が見事第三位を射止めました。

池田さんは一月十八〜二十日に都内で開催された全国プロジェクト発表会・交換大会に出場し、特別賞アリストライフサイエンス賞を獲得しました。

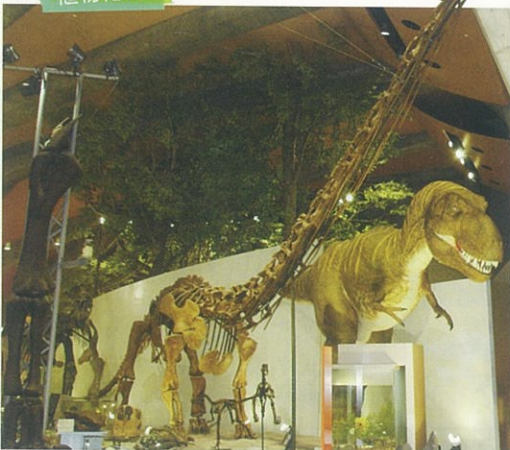


生物学実験

二月十三日、生物学実験では、米の栄養価を高める(株)ファンケル発芽玄米、高品質の高級ワインづくりに取り組むマンスワイン(株)の小諸ワイナリー、そして、群馬県立自然史博物館を見学しました。恐竜をはじめ多くの化石で生物の進化過程を展示した博物館も学生には好評でしたが、数十年前の塩原湖成層の地層から植物化石を取り出してどの植物かを類推する演習では「初めて化石を砕いたのでとても新鮮だった」「バナの葉の化石を見つけた」「何万年前も以前の植物を自分で取り出してみることができ感動した」等の感想が寄せられました。



植物化石



造園学 できるかな?

造園学の授業ではしめ縄づくりに挑戦!!

造園学の実習の一貫としてしめ縄づくりが行われました。中には子ども頃からの経験を思い出し、講師の指導がなくても立派なしめ縄を作った学生もいました。初めはとまどっていた学生も講師や経験のある友人から教わりながら立派なしめ縄ができあがりました。

## 農大祭開催



十一月十日、恒例の農大祭が開催されました。早朝の思わぬ突風でテントが破損というハプニング。お客様に何かあつてはと急遽、会場を校舎内に変更しました。例年を上回る二五〇人もの方々がお見えになり、学生が作った花や野菜、果物。そして、会場での豚汁等を楽しまれました。

## 若人の集いで発表

二月七日、諏訪市において恒例の「若人の集い」が開かれました。二年生の吉澤安久さんが「ヒマワリの栽植密度の違いが品質に及ぼす影響」を発表し、一年生の波田野あゆみさんが「農業の未来」と題した意見発表を行いました。伴野審査委員長信大教授からは「大変すばらしい発表だった」との評価をいただきました。



## マーケティング論実習



億円の経費がかかり、延べ六三万人が従事したとの話を聞き、病虫害被害から農産物を守る大切さを実感していました。

十二月一日、十二日に二年生は農産物マーケティング論の東海地域視察研修で名古屋市の直売所や農林水産省の植物防疫所を視察しました。ウリミバエやミカンコミバエの根絶には、五年の歳月と二五四

## 農業機械実習

農大では多くの資格が取得できますが「ガス溶接・アーク溶接技能」もそのひとつです。卒業をまじかに控えた一年生にとっては最後の授業。気を抜くことなく熱心に取り組んでいました。



## 倫理・道徳



これから社会に出るために、新社会人としてのビジネスマナーの講義も行っています。

「モノを見たときに嬉しいとか楽しいとか、五感を研ぎ澄ますことが大切です」「コミュニケーションのすべては相手のことを思いやることです」「仕事をするには経験から来た「勘」が大切ですし、世の中を見るためには違った視点、「観」も必要です」「これから皆さんが仕事も人生を楽しむためには、素直さが一番大切です」。

コミュニケーションのスキルの専門家、花岡留里子先生の講義では、敬語の使い方や挨拶の仕方からはじまり、人生を生きていく心構え等もわかりやすく話していただき、学生たちにも好評でした。

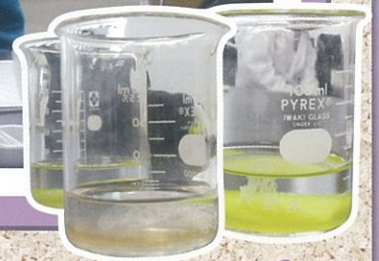
## 教授登場

### 生物学

丸田 一成 教授

ビーカーに浮かんでいるモヤモヤしたものはゴミ?いえ、正解はブロッコリー(緑)とバナナ(茶色)のDNAなのです。丸田教授の生物学の授業では、講義とあわせてDNAの仕組みを学ぶために細胞からDNAを抽出します。

塩水と洗剤等身近な素材を使ったシンプルな実験ですが、なぜDNAが抽出できるのか、ビデオを交えた細かい講義で、高校時代に生物学を学んできた学生たちもより深い知識を習得できたようでした。



## 体育



1年生は根子岳に登山しました。



2年生は最後の授業となるスキー・スノボを楽しみました。

## 平成25年度総合農学科卒業生の進路状況

平成26年2月24日現在

就農 【10名】	自営【3名】	●自家就農(3名)
	農業法人【7名】	●エムプランテーション ●(株)かまくら屋 ●ベジーツ ●(株)泰和 ●若葉農業合同会社 ●サカイエフキューブ(有) 他
就職 【33名】	公務員【1名】	●長野県
	農業協同組合等 【17名】	●あづみ ●上伊那 ●グリーン長野(2名) ●須高 ●信州諏訪 ●洗馬 ●ながの ●長野八ヶ岳 ●大北 ●松本ハイランド ●佐久浅間(2名) ●みなみ信州(3名) ●飛騨
	農業関連企業 【11名】	●(株)中セキ信越(2名) ●(株)コメリ ●(株)信濃培養土 ●(株)ジェイエイグリーン ●(株)トマツ本店 ●(株)林農園(五-ワイン) ●(有)フラワーショップ花季 ●ニッポン緑産(株) ●(株)萬屋商店(2名)
	その他企業【4名】	●(株)博善社 ●(株)西源 ●(株)直富商事 ●(有)末岡製本所
進学【1名】	●信州大学農学部(編入)	
その他【6名】		